

## 広告

企画・制作 読売新聞社広告局

“AIBOU THE MOVIE IV” SPECIAL INTERVIEW &gt;&gt;&gt; JIN MAYAMA



はじめとする様々な組織が翻弄されます。「相棒」シリーズが描くテーマのひとつである「日本の組織」については、どうお考えですか。

日本人はすつと、組織の中にいて定年まで勤め上げれば幸せな老後がある。そう信じてきました。それが、組織の中で自分を抑えることにも役立つ

ていたんです。でもバブル崩壊後、日本人はそのよりどころを失ってしまいました。しかも社会的な状況がどんどん厳しくなり、組織に向かうなどとできない状況になった。だから、かつては権力におもねつている組織の上層部に「許せない」と怒りを覚えていた人たちが、今は組織にまみれている側に自分の姿を重ねてしまったり

する。そんな時代になったにもかかわらず、組織や権力に対するぶれることなく自分の正義を貫き通すのが、杉下右京なんですね。

—劇中では50万人の観客が集まる世界スポーツ競技大会の凱旋パレードを狙った大規模なテロ計画が描かれています。現実でも、3年後には東京で国際的なスポーツイベントが開催されますね。

日本人はどうかで「この国でテロは起こらない」と思っているところがあるんです。きっとほんどの人が今も日本は平和だと思っているし、いつまでも平和であってほしいと願っている。でも、そういう人が多い国はいい国なのですよ。

この映画を観ると、「自分は普段の生活のなかで、テロが起きる可能性を考えて繁華街やす



タジアムなどに行っているかなと考えさせられる。これだけ国際化社会になつていれば、テロはいつ起きてもおかしくないんですから。ただ、むやみに恐怖に陥る必要はないんです。時々立ち止まって考えるということが大切で、この作品はそれを思

出させてくれる。

—鑑賞後皆で意見を聞かせてほしい

—これから映画をご覧になる方にメッセージをお願いします。面白い作品だということは間違いないので、ぜひ映画館で集中して観てほしいですね。最後まで観てすべての謎が解けると、心にずしんとくるも

# 相棒—劇場版IV—の謎に迫る。

事件の“裏”を描き  
観るものに突きつける

—まず、本作の感想をお聞かせください。

「相棒」シリーズの大きな特徴は、事件の表だけでなく裏に

隠された策謀までをしっかりと描いていること。大人が楽しめる、平成になってから一番いい刑事ドラマだと思います。この「相棒」劇場版でも、テロが日本で起きることを想像したことがあるのか、という問いを重

層的にたたみかけることで、多くの日本人が漠然と抱いているであろう「平和への慢心」を鋭く突いてくる。エンターテインメント作品でありながら、観客をこれほどドキッとするのはさ



1962年、大阪府生まれ。87年、同志社大学法学部政治学科卒。同年、中部読売新聞（のち読売新聞中部支社）入社。89年、同社退職。91年、フリーライターに。2004年、「ハゲタカ」でデビュー。「ハゲタカ」シリーズ、「マグマ」（06）、「亮國」（14）など、映像化された作品も多い。最新作「ラ色の未来」を2月17日に上映する。

私が小説に描きたかったテーマが、ここにある。

—社会派エンターテインメント小説の旗手として、現代社会の光と影を描いてきた真山さん

が感じた「相棒」の魅力とは？  
やはり、杉下右京の魅力ですね。右京は、自分自身の中に「絶対

に譲らないもの」をもつている。彼は派手に動き回らないし、行動のすべてを説明してくれるわけでもない。だからこそ、観客は右京の言動の意味を考え、物語の中に引き込まれていくのです。

反町隆史さん演じる冠城亘は、20年前の杉下右京はあるう感じだったかもしれません、と思わせるところがあります。同時に彼と右京とは好対照でもあります。いいバランスですよね。二人がぶつかることで起きる、化学反応も魅力だと思います。



—本作では、国際犯罪組織が起きたテロ計画に、警視庁を

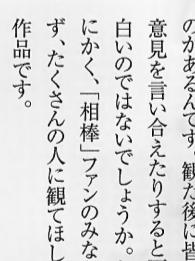
—今、私たち日本人が考えるべきこと

—

前作から3年。日本中のファンが待ち焦がれた「相棒」劇場版が帰ってくる。本作で杉下右京と四代目相棒冠城亘が立ち向かうのはミステリアスな国際犯罪組織。彼らが企てた大規模なテロ計画の裏に隠された謎と真実とは…。小説「ハゲタカ」シリーズで人気の作家・真山仁さんに、この映画の魅力を聞いた――。

—エンターテインメントが背負う使命

もし「あなたは本当にこの国を安全だと思っているのか」と訴えかけたいとするなら、この作品のように誰も傷つかないフィクションの世界で何かを起こせばいい。それはエンターテインメントのある種の使命だと私は思っています。実は、本作と同じようなテーマの作品を10年ほど前に書き進めていました。でもちよと納得できなかったので、本にしないで眠らせたままだったんです。だから映画の結末を観たときは、「あつ！これが、自分が小説を書き直さなきゃいけないな」と思ってしまいました。(笑)。



のがあるんです。観た後に皆で意見を言い合えたりすると面白いのではないか、「相棒」ファンのみならず、たくさん的人に見てほしい作品です。



**STORY** 7年前、英国で集団毒殺事件が起り、少女が誘拐された。しかし、当時の駐英大使と日本政府は誘拐事件を隠して葬る。それから7年、国連犯罪情報事務局・元理事のマーク・リュウガ、国際犯罪組織バーズのリーダー=レイブンを追って来日。特命係の二人が案内役として同行することになる。ある日、外務省のホームページがハッキングされ、犯行グループは誘拐した少女の動画を公開し、日本政府に約9億円の身代金を要求。拒否すれば「大勢の人々が見守る中で、日本人の誇りが碎け散る」と予告する――。

©2017「相棒-劇場版IV-パートナーズ」



命をかけても、守りたいものがある。

# 相棒

劇場版IV

首都クリシス 人質は50万人! 特命係 最後の決断

遂に明日(土)  
あまりに切ないクライマックスへ――!

©2017「相棒-劇場版IV-パートナーズ」

パリアフリー上映UDCast方式・音声ガイドに

本作の上映劇場と上映時間は東映ホームページ【tei.co.jp】

「相棒-劇場版IV-」の前売券・劇場情報から劇場のサイトでご覧いただけます。